

2010 年度 第 6 回常任理事会議事録

日 時: 2011 年 3 月 12 日(土)

15 時 00 分～18 時 00 分

場 所: 中京大学心理学部会議室 (3 号館別館 1 階)

出席者: 森下高治理事長, 藤田主一副理事長

浮谷秀一, 大坊郁夫, 田中真介, 谷口泰富,

内藤哲雄, 向井希宏, 蓮花一己 (以上 9 名)

委任状: 川本利恵子, 田之内厚三

欠席者: 井上孝代, 玉井寛, 藤森立男

事務局: 浮谷秀一 (事務局長)

I. 理事長挨拶 (森下理事長)

- 大地震の翌日開催の常任理事会出席のお礼と会場提供の向井先生へのお礼が述べられた。
- 議事録作成者として中京大学の院生が紹介された。

II. 報告事項

1. 各種委員会報告

(1) 機関誌編集委員会 (代理: 浮谷事務局長)

- メールのやり取りで第 36 巻第 2 巻の内容を確認しているが, もっと編集委員会の中での相互疎通が必要であると考えている。
- 査読の遅れについて懸念があるので, 審査を査読スケジュールに沿ってもっとスムーズに進めるようにする。
- 第 77 回大会時のシンポジウムやワークショップ, 研修会などの内容を「特集」として掲載することが提案された。

(2) 企画委員会 (代理: 浮谷事務局長)

- 第 78 回大会時の「研修会 B」の候補者について推薦を依頼したが, 今日まで特に推薦はなかった。

(3) 広報委員会 (代理: 浮谷事務局長)

- 『応用心理学のクロスロード』第 3 号の発刊を準備している。
- 理事長対談は 2 月 23 日(水)に宇宙飛行士の山崎直子氏と行なった。山崎氏への謝金は無料であった。

(4) 「応用心理士」認定審査委員会

(代理: 浮谷委員)

- 2010 年度後期の申請者は 7 名であり, 全員を合格とした。認定料の振り込みを確認したうえで, 3 月末に認定証および認定証カードを送付する予定である。

(5) 国際交流委員会 (内藤委員長)

- 英文特集号への投稿申込みは, 原著 21 本, 資料 4 本, 短報 10 本である。その他, 本学会主催シンポジウム 1 本である。
- 発行を 1 年遅らせることで, 2 年分の経費を積み立てる。資料に基づいて印刷費の見積りが示された。
- 英文特集号の印刷費として 2011 年度と 2012 年度に 50 万円ずつ積み立てる。
- 審査対象論文が 34 本あるので審査体制を見直したい。副委員長に蓮花先生, 委員に臼井伸之介先生 (大阪大学), 谷口淳一先生 (帝塚山大学) を迎え, 査読者の人選作業は関西で実施する。
- 掲載本数について議論あり, 経費を考慮してページ数を調整することになった。
- 別刷を必要とする場合は, すべて著者負担とする。
- 非会員が査読した場合の謝礼は図書カード 3,000 円分とする。

(6) 若手研究者支援委員会 (蓮花委員長)

- 特になし

(7) 学会賞選考委員会 (藤田委員長)

- 第 77 回大会の大会発表賞受賞者の紹介を『クロスロード』に掲載する。
- 第 78 回大会においても大会発表賞を実施するので, 大会委員長に委員の推薦を依頼した。

2. 2010 年度第 77 回大会について

(田中大会委員長)

- 資料に基づき大会会計報告を行なった。
- 参加者 374 名で, 例年より約 100 名多かった。非会員の参加も多く, 収入は例年より多かった。大会の感想として, ①暑かった, ②5 分間のプレゼンはよかった, ③発表形式はよかったが隣のプレゼンの声があり聞きづらかった, ④個人対個人の質疑応答時間が短かった, などの声があった。大会発表賞につ

いては、「大会を盛り上げていた」という感想が多かった。

3. 2011 年度第 78 回大会について

(内藤大会委員長)

- 2011 年度は九州大学の方式で行う。パネルの手立てに苦慮している。
- 理事懇親会会場、懇親会会場共に確保した。
- 大会の目玉として、若者の新型鬱病、草食型、新ナルシズム、高齢者運転のテーマを取りあげて、準備を進めている。垣本由紀子先生に高齢者交通問題についての講演を依頼した。
- 大会通信は 3 月末発送予定。発表論文集は当日配布する。大会前日 9 日の理事会は午後 3 時開会を予定している。

4. 日本心理学諸学会連合について (心理学検定を含む)

(1) 理事会について (谷口担当常任理事)

- 12 月 23 日の理事会について資料に基づき報告があった。森下理事長も出席した。
- 議事録、2 学会の加盟申請、オブザーバー出席、修正予算を審議し承認した後、野島資格委員会委員長から国資格問題について説明があった。名称は「心理師」とし、大学院のカリキュラムについては 3 案を併記する、資格の汎用性を確保することを確認し、官庁に提出する要望書を承認した。
- その後、三団体 (臨床心理職国家資格推進連絡協議会・医療心理師国家資格制度推進協議会・日本心理学諸学会連合) での協議を経て要望書が修正された。その修正された要望書について承認依頼があったので審議し承認した。
- 本理事会が NHK の取材を受け、「クローズアップ現代」で放映された。

(2) 心理学検定について (大坊心理学検定委員)

- 2011 年 1 月 1 日から委員が藤田副理事長から大坊常任理事に交代した。
- 『2011 年度版問題集』は実務教育出版から発行される。また、京都の出版会社からの問題集出版を承認した。
- 2011 年度も昨年と同様、受検会場は 10 会場、広島のみ会場が変更される。
- 70 名程度の受検者があればその大学等で単

独開催できることを決定した。

- Web 申し込みを始める。

5. その他

- 日本マイクロカウンセリング学会からの後援依頼について説明があり了承された。
- 在庫している機関誌等の処理について説明があり了承された。①寄贈単行本、機関誌の一部、大会論文集、会員名簿、学会史、過去の事務局資料は事務局に保管する。②学会史の作成資料が入っている段ボール箱は日本体育大学で保管する。③帝塚山大学で機関誌、大会論文集、会員名簿、学会史を 17 箱分受け入れ保管する。④第 78 回大会、第 79 回大会、第 80 回大会に一定数の機関誌を送付し販売してもらう。⑤その他はすべて処分する。

III. 審議事項

1. 日本心理学会第 75 回大会における本学会主催シンポジウムに関する件 (藤田副理事長)

- 資料に基づきシンポジウムの内容が説明され承認された。

2. 第 80 回大会開催校に関する件 (森下理事長)

- 2013 年度第 80 回大会を日本体育大学 (藤田大会委員長) で開催することが提案され承認された。藤田委員長より例年どおり 9 月の第 2 週の土日に開催を予定していることが説明された。

3. 新入会審査に関する件 (浮谷事務局長)

- 新入会審査を迅速に行うため、入会申込書を PDF ファイルにして常任理事に送信し、3 分 2 以上の賛同によって承認されたこととして手続きを進めることが承認された。

4. 入会申込書に関する件 (浮谷事務局長)

- 推薦者欄の形式について検討した結果、「推薦者をお書きください。推薦者がいない場合は、理由書を添えて提出してください。」という一文を入会申込書に加えることが決まった。

5. 若手研究者支援に関する件 (蓮花委員長)

- 支援の仕方について、①事前に発表費を引いて申し込みさせる、②学生証の提示により事前に支払った院生会員の発表費を補助するな

どいくつかの提案があり、未確定部分を一任することも含めて承認した。

6. 学会ホームページに関する件（田中委員）
 - 業者に委託する方向について検討してはどうかとの提案があった。業者に委託した場合の費用を検討することになった。
7. 平成 23 年度公開シンポジウムに関する件
（代理：浮谷事務局長）
 - 公開シンポジウムを 11 月 26 日（土）麻布大学で開催することが提案されたが、検討の結果、12 日（土）が望ましいので委員会に検討をお願いすることになった。同時に会場についても検討をお願いした。
8. 新入会員審査および会員異動に関する件
（浮谷事務局長）
 - 下記の入会希望者 13 名を審査し全員を承認した。
津曲陽子、豊田賀子、荒木みさこ、原田知子、福島義通、齊藤崇、綿村英一郎、楠橋康弘、李正姫、塩谷尚正、立谷泰久、大関貴久、阿南孝宏
 - 2010 年 11 月 10 日現在の会員数は 1,298 名である。
9. 理事長諮問委員会からの提言に関する件
（藤田委員長）
 - 役員人数の変更が提案され、下記の 4 点が承認された。今年度の総会で提案する。①常任理事の人数を 15 名から 9 名に削減する。②理事長が若干名の常任理事を推薦できることとする。③選挙によって選ばれる理事の人数を 24 名から 27 名に、推薦理事の人数を 12 名から 9 名にする。④理事総数 36 名は変更しない。
 - 任期の開始が選挙実施の次年度 4 月 1 日からであることを明記する。
 - 紙ベースの名簿を作成しないことにし、マイページを導入して Web 上で運用することにした。
 - 今回の常任理事会は 5 月 14 日（土）に東京地区で開催する予定である。

以上

2011 年度 第 1 回常任理事会議事録

日 時：2011 年 5 月 14 日（土）

午後 1 時～午後 5 時 30 分

場 所：駒澤大学 第一研究館 4 階（1416 室）

出席者：森下高治理事長、藤田主一副理事長、井上孝代、浮谷秀一、田中真介、谷口泰富、田之内厚三、内藤哲雄、蓮花一己（以上 9 名）
委任状：玉井寛、川本利恵子、大坊郁夫、向井希宏（以上 4 名）

欠席者：藤森立男

事務局：浮谷秀一（事務局長）、佐藤恵美（幹事）

I. 理事長より（森下理事長）

II. 報告事項

1. 各種委員会

(1) 機関誌編集委員会（代理：浮谷事務局長）

- 『応用心理学研究』第 36 巻第 2 号の掲載内容は、原著 6 本、短報 3 本であり、現在校正を終えて、印刷中である。
- 平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日までの投稿状況は、原著 7 本、資料 6 本、短報 5 本である。このうち 6 本の査読を終了している。（資料参考）
- 投稿した論文についての第一次審査結果の返信がなかったということで、投稿者から投稿取り下げの手紙が届いた。この件については、編集委員会が適切に対応する。若手研究者の就職などを考慮し、今後は投稿論文の受稿から受理までの期間を 1 年以内とするように体制を整える。

(2) 企画委員会（田之内委員長）

- 平成 23 年度の公開シンポジウムは、平成 23 年 11 月 12 日（土）（13：30～16：00）に日本体育大学世田谷キャンパスにて開催される予定する。テーマについては、次回の委員会で決める予定であり、次回の常任理事会で提案する。

(3) 広報委員会（代理：浮谷事務局長）

- 『応用心理学のクロスロード』第 3 号の発行と内容の説明があった（別紙参照）。

(4) 「応用心理士」認定審査委員会

（代理：浮谷委員）

- 2010 年後期の申請者は 7 名あり、審査の結果、全員を合格とした。しかし、期日までに認定料を納めた申請者は 6 名であったので、2010 年後期の認定者を 6 名とした。
 - 2011 年度前期の申請者は、今日現在で 1 名である。
- (5) 国際交流委員会 (内藤委員長)
- 国際応用心理学会の英文特集号は、平成 23 年 3 月 31 日締め切りで投稿論文は 29 件であった。
 - 内藤委員長が第 78 回大会開催準備で多忙のため、英文特集号の担当を蓮花副委員長に依頼した。
 - 4 月 23 日に委員会を開催した。投稿論文の査読依頼の発送を 5 月上旬までに終了させ、6 月 30 日締め切りとしたので、12 月には査読業務を終了させられる予定である。
- (6) 若手研究者支援委員会 (蓮花委員長)
- 第 78 回大会では、これまでどおり大会中に対面型若手支援を行う予定である。
 - 第 79 回大会以降の若手支援は、大会中の対面型支援ではなく、申し込みの時点で補助を行うことを考えており、手続きなど現在検討中である。
- (7) 学会賞選考委員会 (藤田副理事長)
- 第 78 回大会でも例年どおり「優秀大会発表賞」を選考し表彰する予定である。
 - 選考の手続き、担当者の手配、投票用紙の封入などの作業は、内藤委員長と相談しながら作業を進める予定である。
2. 2011 年度第 78 回大会について (内藤委員長)
- 第 78 回大会は信州大学松本キャンパス (2011 年 9 月 10, 11 日) にて開催する。
 - 大会通信の第 1 号を 5 月 12 日に発送した。6 月 10 日が大会参加・発表申込の締め切り、6 月 21 日が発表論文原稿提出の締め切りである。
 - 優秀大会発表賞選考のために、発表論文集は事前に発送する予定であるが、経費の関係から、参加者の概数によっては当日配布に変更する場合もある。
3. 2012 年度第 79 回大会について
(代理: 浮谷事務局長)
- 第 79 回大会は札幌の北星学園大学 (濱保久大会委員長) で 2012 年 9 月 22 日、23 日に開催する予定である。
 - 濱大会委員長には、適切な時期に常任理事会への出席をお願いする。
4. 日本心理学諸学会連合について (心理学検定を含む) (谷口担当常任理事)
- 平成 22 年 12 月 23 日の理事会で決定承認された国資格問題に関する内容が、三団体協議をへて微修正が繰り返されたことから、臨時理事会開催の要請があった。その結果、平成 23 年 5 月 7 日に臨時理事会が開催された。
 - 審議内容は、資格の名称を「心理師」から「心理師(仮称)」にすること、受験資格の修正、業務内容の修正の 3 件であり、審議の結果承認された。付帯決議として、名称に「臨床」を付けないこと、カリキュラムの検討が続けることが決まった。臨床心理士を所持し就業している人の受験資格については、経過措置が設けられることになるであろうことが説明された。
5. その他
- 東京富士大学にあった日本応用心理学会事務局の資料 17 箱を平成 23 年 3 月 17 日に帝塚山大学に移動した。
 - その他の資料の保管場所は今後、検討していく予定である。
 - 日本心理学会第 75 回大会において、本学会が企画したシンポジウムを開催する予定である。
 - 第 80 回大会は日本体育大学で開催する予定である。今後、他学会と重ならないように日程を調整する。
- III. 審議事項
1. 名誉会員推戴の件 (浮谷事務局長)
- 前理事長である岡村一成先生 (東京富士大学) を推戴することが承認された。
 - 昨年、推戴し理事であることからご辞退された荻野七重先生にも再度名誉会員推戴の打診をすることになった。
2. 理事長諮問機関の答申に関する件
(藤田副理事長)

●日本応用心理学会の更なる発展について検討した結果、中間報告として下記の 11 項目の提案があり検討された(別紙資料配布)。さらに、浮谷事務局長より 2010 年決算書(案)について説明があり、それに関して話し合いと提案があった。この結果を理事長諮問委員会に持ち帰り、次回の常任理事会までに再度検討することになった。11 項目の提案と検討結果は下記のとおりである。

- ① 常任理事会の宿泊費補助は、今年度は廃止し、来年度以降の補助については、今後の財政を考慮して再検討することが承認された。
- ② 常任理事の交通費について、常任理事会会場から遠方の常任理事の場合は幹線部分を、その他の場合は 1,000 円とし、会場提供校の場合は無償とすることが承認された。
- ③ 各種委員会についても、常任理事会の交通費支払い内容に準拠することが承認された。
- ④ 年会費の見直しについて 5 つの提案があり、審議された。継続審議扱いとし、次回の常任理事会に再度提案する。
- ⑤ 会員名簿の紙媒体発行の廃止を決定し、今後は Web 上で処理し、国際文献印刷社の「マイページ」を活用していくことが承認された。「マイページ」運用のために必要な ID とパスワードを会員にどのように配布していくかなどは今後検討する。
- ⑥ 常任理事の定員については、前回の常任理事会で承認済み。
- ⑦ 「応用心理士」の確保と質的保証について、12 月末までに玉井委員長と検討する。
- ⑧ 『応用心理学のクロスロード』について、今後のあり方を考える予定である。平成 24 年度以降、年間 1 冊ペースでの発行を検討している。今後、発行の目的を明確にして、会員規模や経費を考慮していく。
- ⑨ 従来の紙媒体のニュースレターより情報発信が迅速に行えることから、「メールニュース」を新設し、会員向けに配信することが承認された。広報委員会が行うこと

も検討されたが、どのような組織体制で配信を行うかについて、今後検討する。

⑩ ホームページの充実に向けて、外注か、若手に依頼してのリニューアル化かは今後検討する。

⑪ 国際応用心理学会関連経費の見直しを検討する。

[財政立て直しに関する提案について]

- さまざまな経費を削ることや、年会費の値上げを検討してもよいが、過去の経費を再検討しなければならないのではないかという意見がだされた。これを受けて、常任理事の交通費や年会費の値上げも含めた他の予算編成に関しても、昨年までの決算書と予算書の詳細な明細などを明らかにしてから、予算編成を再度検討していく必要があるという提案が出された。
- 財政の立て直しに関して、日本応用心理学会の今後の方針を明らかにしていく必要がある。学会は「メールニュース」や「ホームページ」など時代に応じた情報発信を行い、時代に合わせていく必要がある。時代のニーズと今後の学会の方針を明らかにしてから、予算をリンクさせていく必要があるのではないかという提案が出された。

3. 財政問題に関する件(予算・決算について) (浮谷事務局長)

- 予算案は、前年度予算案に基づく形式で作成されているが、前年度決算に基づく予算案のほういいのではないかと意見が出された。
- 本来、ホームページ作成費は広報委員会活動費に含まれるものと考えられるが、今後は項目を独立させて運用していくことになった。
- 英文特集号関係諸費に英文特集号の論文の郵送費を含めることにした。
- 学会の財産を明確にするために、特別企画積立金、若手育成基金を別管理にする。

4. 自動退会者の復帰に関する件

(浮谷事務局長)

- 年会費を 3 年以上未納の会員を自動退会者とし、平成 23 年度 3 月 31 日付で退会とした。その後、自動退会となった会員から、4

月以降に 2011 年度分の年会費が入金された。会計上では、未納年度に充当されることになる。今回の場合、未納分が納められた場合には自動退会の処理を無効にすることになった。

- 今後、自動退会者についての内規が明文化されていないので、作成する必要があることが確認された。

5. 新入会員審査および会員異動に関する件

- 新入会員審査については、Web 上の持ち回り会議で承認されている方も含めて下記の 37 名の方を承認した。

江頭尚子, 池田正博, 近藤光江, 本間悠也, 小林明弘, 小川拓郎, 南方絵理, 土田昭司, 渡辺理恵子, 新出泰子, 高濱 愛, 吉田浩之, 来田宣幸, 荒木俊江, 佐藤 舞, 田畑法子, 谷本郁子, 松元 佑, 有賀敦紀, 神田 尚, 福島由佳理, 中西友希子, 小原宏基, 門此清美, 中谷壮貴, 堀内伸起, 門 有里佳, 石坂晃子, 野口未紗, 盛永政和, 川西沙也加, 松尾哲朗, 森本靖彬, 静 隆三郎, 永瀬 彩, 佐藤有紀, 福岡和紀

- 2011 年 5 月 10 日現在の会員数は 1,151 名である。

6. その他

[震災対応について]

- 日本応用心理学会として、今後、行政と連携しながらの支援を考えて行く予定である。さまざまな支援の形があるが、ホームページやシンポジウムなどをとおして、学会独自の支援を検討していくことになった。

* 次回の常任理事会は平成 23 年 8 月 7 日(日)に開催することを確認した。開催場所については未定である。

以上

2011 年度第 2 回常任理事会議事録

日 時: 2011 年 8 月 7 日(日)

午後 2 時 30 分～午後 5 時 30 分

場 所: 中京大学心理学部会議室(3 号館別館 1 階)

出席者: 森下高治理事長, 藤田主一副理事長, 浮谷

秀一, 川本利恵子, 田中真介, 谷口泰富, 玉井寛, 内藤哲雄, 藤森立男, 向井希宏, 蓮花一己(以上 11 名)

委任状: 井上孝代, 大坊郁夫, 田之内厚三

(以上 3 名)

事務局: 浮谷秀一(事務局長)

I. 理事長より

- 常任理事会開催を世話していただいた向井先生にお礼があった。
- 東日本大震災にお見舞いのことばがあった。
- 名誉会員の長谷川孫一郎先生がご逝去されたとの報告があった。

II. 報告事項

1. 各種委員会

(1) 機関誌編集委員会(川本委員長)

- 第 1 回編集委員会を本日常任理事会開催前に開催した。
- 『応用心理学研究』第 37 巻第 1 号には原著 1 本, 資料 3 本, 短報 2 本の掲載を予定している。
- 平成 23 年 4 月 1 日から平成 23 年 7 月 31 日までに, 原著 7 本, 資料 5 本, 短報 6 本の投稿があった。

(2) 企画委員会(代理: 浮谷事務局長)

- 平成 23 年度の公開シンポジウムは, 平成 23 年 11 月 12 日(土)(13:30～16:00)に日本体育大学世田谷キャンパスにて開催される予定である。
- テーマ: “まさか!” の応用心理学—災害時はこうする

(3) 広報委員会(藤森委員長)

- 『応用心理学のクロスロード』第 4 号の掲載内容の説明があった(別紙参照)。

(4) 「応用心理士」認定審査委員会(玉井委員長)

- 2011 年前期の申請者が 1 名あり, 審査の結果合格とした。現在手続きを進めている。
- 2010 年度後期の認定対象者で, 認定料が未納のため保留になっていた申請者から認定料が納入されたので追加認定した。

(5) 国際交流委員会(内藤委員長)

- 国際応用心理学会の英文特集号の審査につい

て、英文特集号担当の蓮花副委員長から報告があった。28 編の応募に対して 56 名のレフリーを選定して 6 月末締め切りで依頼した。査読結果を著者に順次返送中である。現在、採択か不採択かは決定していない。修正原稿を 8 月末までに揃え、12 月末までには査読を終了したい。2 回目の査読によって不採択の可能性もある。

(6) 若手研究者支援委員会（蓮花委員長）

- 第 78 回大会では、これまでどおり大会中に対面型若手支援を行う予定である。
- 第 79 回大会以降の若手支援は、大会参加申し込み時点のみに限る予定である。詳細な方法は現在検討中である。

(7) 学会賞選考委員会（藤田副理事長）

- 第 78 回大会でも例年どおり「優秀大会発表賞」の選考を実施する。
- 投票用紙を大会受付で配布する。1 日目の参加者には 2 日分の投票用紙、2 日目参加者には 2 日目のみの投票用紙を配布する。口頭発表とポスター発表の両方を対象にして選考する。
- 第 77 回大会での受賞者全員を懇親会で理事長が表彰する。
- 受賞発表の筆頭者を懇親会招待する。助成の経費は学会（学会賞選考委員会）から支出する。

2. 2011 年度第 78 回大会について

（内藤委員長）

- 現在、口頭発表・ポスター発表の日程は HP で確認できる。
- 口頭発表・ポスター発表などが並行的に進行できるようにプログラミングした。
- シンポジウム用のテンプレートを作成して今後統一するように申し送る。
- 理事会は大会前日午後 3 時に開始予定である。

3. 2012 年度第 79 回大会について

（代理：浮谷事務局長）

- 今回は特に報告事項はないが、前回報告したとおり、第 79 回大会は札幌の北星学園大学（濱保久大会委員長）で 2012 年 9 月 22 日、23 日に開催する予定である。

4. 日本心理学諸学会連合について

（心理学検定を含む）（谷口担当常任理事）

- 定例の理事会が 6 月 20 日（日）に開催された。主な議題は役員選挙であった。資料に基づいて役員選挙の結果が報告された。

III. 審議事項

1. 決算・予算について（浮谷事務局長）

- 2010 年度決算書（案）が一部修正のうえ承認された。
- 2011 年度予算案については、英文特集号関係諸費として 10 万円を計上し、国際交流委員会活動費を 5 万円に減額した。また、基本基金積立金から 50 万円を取り崩すことにした。

2. 理事長諮問委員会の答申に関する件

（藤田副理事長）

- 下記の点が答申（中間報告 2 報）された。場合によっては審議された。
 - ① 常任理事会の宿泊費補助については、前回の常任理事会で承認済み。
 - ② 常任理事の交通費について、前回の常任理事会で承認済み。
 - ③ 各種委員会の交通費についても、前回の常任理事会で承認済み。
 - ④ 年会費の見直しについて 2 つの提案があり、審議の結果、次年度の値上げ見送りが決定した。次年度以降については、財政状況を考慮しながら検討していくことになった。
 - ⑤ 会員名簿の紙媒体発行を廃止し、今後は Web 上で処理していくことについては、前回の常任理事会で承認済み。今後は、国際文献印刷社の「マイページ」を活用していくが、「マイページ」運用のために必要な ID とパスワードは役員選挙投票用紙と同封するなど経費削減を検討していくことが了承された。
 - ⑥ 常任理事の定員については、前回の常任理事会で承認済み。
 - ⑦ 「応用心理士」の確保と質的保証について、12 月末までに玉井委員長と検討する。検討課題として、専門分野を付与した資格の出し方の件、年に何回かの専門別研修会を開

催し資格の質的な向上を目指す件,「上級応用心理士」の認定の件などが挙げられた。

⑧『応用心理学のクロスロード』について,平成 24 年度以降は年 1 冊発行していくことが承認された。来年度以降に向けての契約等は,次期体制の新広報委員会が担当する。

⑨「メールニュース」の新設については,前回の常任理事会で承認済。どのような組織体制で配信を行うかについて今後検討することになった。

⑩ホームページの充実については,適切な人材を確保して進めていくことが答申され承認された。この領域に卓越した会員を推薦してほしい旨の依頼があった。

⑪国際応用心理学会関連経費について,従来のような助成を見送ることが承認された。

3. 『応用心理学研究』年 3 号化に関する件

(川本編集委員長)

- 川本編集委員長より投稿本数が増加している状況を考慮して,会員サービスの向上のために機関誌を年 3 号の発行にしたいとの提案がなされ,審議の結果常任理事会では承認された。

4. 東日本大震災の実践・調査研究活動の助成に関する件 (森下理事長)

- 東日本大震災について,理事長から会員による何らかの支援に対して学会から助成したいとの提案があり,審議の結果下記のように実施することが承認された。

①今年度はこれまでに行われた支援に対して助成する。

②助成は今年度に限るものとする。

③採択件数は 3 件程度とし,1 件あたりの助成金額は 10 万円から 20 万円まで,総額 30 万円とする。

④この活動のために震災支援委員会(特別委員会)を新設する。委員の人選については

理事長に一任した。

5. 機関誌掲載論文転載に関する件

(川本編集委員長)

- 以前機関誌に掲載された自分の論文を転載したいとの申請があった。審議の結果,そのままの体裁で転載する場合,および二重投稿にならない場合に限って承認することになった。転載証明書は機関誌編集委員会が出す。同様の事例があった場合は編集委員会の判断とするが,その旨を常任理事会に報告する。

6. 年会費滞納者の復帰に関する件

(浮谷事務局長)

- 年会費を 3 年以上滞納した場合に退会とする件について承認された。この処置によって退会した者が会員復帰する場合に関する内規が提案され,審議の結果承認された。

7. モバイル学会シンポジウム協賛依頼に関する件

- 協賛を承認した。今後同様の依頼は事務局で承認することになった。判断に迷った場合のみ常任理事会で審議することになった。

8. 新入会員審査および会員異動に関する件

(浮谷事務局長)

- 新入会員審査については,Web 上の持ち回り会議で承認されている方を含めて下記の 27 名の方を承認した。

坂井信之,西村太志,田山允俊,日榮麻衣子,井上秀一,中島 力,岡本 悠,大谷みちる,大林裕司,小玉紗織,高木 彩,横井川美佳,松下陽一郎,田村早苗,村上裕子,尾野明未,姜 恵慶,新 裕紀子,高辻結希,山崎啓子,佐藤瑠里,村井孝子,豊福佳代,森 由隆,月野木竜也,澤本忠司,川瀧節子

- 2011 年 8 月 3 日現在の会員数は 1,189 名である。

* 次回の常任理事会は,大会期間中の平成 23 年 9 月 11 日(日)昼休みに開催することを確認した。

以上